



市議会議員 上田由美子 Tel 68-2106



前市議会議員 砂田喜昭



前参議院議員 たけだ良介

統一協会=カルト集団と絶縁を

霊感商法、高額寄付、人権無視の集団結婚式など反社会的行動を断罪されている統一協会と世界平和統一家庭連合が正体を隠して地方自治体に関与していることが問題になっています。

「とらみ野を愛し元気にする会」を名乗る統一協会の関連団体が木曾義伸と巴御前のフォーラムを2月27日に津沢コミュニティプラザで開きました。「木曾義伸なら」と、善意で参加した方々も多かったようです。しかし、この会は鴨野守氏が会長で、統一協会関連団体のトップです。小矢部市在住の副会長・廣田秀憲氏が主催者あいさつ、司会の山下穰氏が市長メッセージの代読、柴田巧参院議員がビデオメッセージを寄せました。

統一協会の故文鮮明総裁がはじめたピースロードを、小矢部市など県内各自治体が後援しました。

最高裁「組織的不法行為」を断罪

統一協会は正体を隠して、市民に接近し、マインドコントロールを重ね、霊感商法、高額寄付などに巻き込むことを続けています。2001年2月9日、「青春を返せ訴訟」で統一協会側の敗訴が最高裁で初めて確定しました。「教団の詐欺的入信勧誘と献金の説得」について「組織的不法行為」が認められるとした二審・広島高裁岡山支部判決が確定しました。現在も霊感商法の被害は続いています。全国霊感商法対策弁護士連絡会によると1987年から2021年までの霊感商法の被害総額は約1237億円にのぼります。統一協会が法令順守を強化したと主張する09年以降も被害は続いています。

石動駅での折り返し運転

2027年実施の見通し

県議会総合交通特別委員会で9月2日、あいの風とやま鉄道の社長が、石動駅での折り返し運転を2027年に実施する見通しを表明しました。そうすれば日中の時間帯の石動・高岡間の電車は1時間に1本から30分に1本に増便になるとのことです。折り返し運転の実現を求めてきた市民の声と、それを取り上げてきた日本共産党の取り組みを紹介します。

一人の声が議会を動かす

2015年10月に荒川地区で開かれた市議会議会報告会で、「石動駅での折り返し運転」の要望が出されました。

15年12月議会で砂田市議（当時）が議会報告会での要望を受けて「石動駅での折り返し運転」を質問しました。企画室長が

小矢部市議会 統一協会関連団体の意見書を否決

統一協会は二つの顔をもっています。一つが霊感商法、集団結婚などで甚大な被害を出している反社会的カルト集団の顔。もう一つの顔は、統一協会と表裏一体の政治組織「国際勝共連合」をつくり「反共と反動」の先兵を務めてきたことです。

2011年12月小矢部市議会に、富山県平和大使協議会という統一協会の関連団体が、緊急事態基本法の制定を求める意見書の提出を求めたことがありました。自民党の憲法改悪案に含まれる緊急事態条項と、うり二つのものとして反対討論をしました。採決の結果、本会議でこの意見書は否決となりました。

市議会がこのように統一協会関連団体の意見書にキツパリと「否決」の議決をしたのですから、小矢部市は統一協会の関連団体との関わりを持つていなかったか、改めて調査するとともに、今後このような反社会的団体との関係をきっぱりと断つことが求められます。

12月定例会で否決された議案

(追加議案・議員提出) 議員提出議案第9号 「緊急事態基本法」早期制定を求める意見書

出典:議会だより164号 平成24年2月発行より



2018年 県地方議員団の県交渉が行われ、県は「今冬の大雪をふまえ石動駅での折り返し運転の必要性を認識した。課題は財源の確保と、あいの風とやま鉄道が富山駅の改築に人手がとられているのでその後になる」と回答しました。

国「財政支援が可能」と回答

2019年 19年1月23日、日本共産党富山県地方議員団の政府交渉でも取り上げました。国土交通省は「市が地域公共交通網形成計画に位置づければ財政支援が可能」と回答しました。

県「令和5年に基本設計 令和6年に実施設計の計画」と回答

2020年 20年11月5、6日の県交渉で県は「市が昨年度改訂した地域公共交通網形成計画に盛り込まれたので国費を含めた財源確保を検討。令和5年(23年)に基本設計、令和6年(24年)に実施設計の計画」と回答しました。

県も必要性を認識

18年5月17、18日に、日本共産党富山と石動駅での折り返し運転を取り上げました。さらに福岡駅で折り返し運転をさせてはならないことも確認しました。

2016年

16年12月議会では「県が施設の整備と運行指令システムの改修に2億6千万円かかるから難しいというが、石動駅での折り返し運転を諦めずに、実現を求めている」と求めました。

「高岡以西の利便性向上に重要で、あいの風とやま鉄道、県に要望していく」と答弁したことを、「季刊明るい小矢部」で広く市民に知らせました。

その後、16年から17年にかけて、各議員が繰り返し質問しました。一人の声で議会を動かしました。

砂田市議（当時）も国、県との交渉をふまえて一般質問を繰り返しました。